



本資料は、米国アッヴィ社が2020年5月8日(米国時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、2020年5月13日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com)をご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

## PRESS RELEASE

2020年5月13日

### アッヴィ、アラガンとの統合手続き完了

- 免疫、血液腫瘍、神経疾患、アラガンエステティクスの主要領域でリーダーシップポジションを有するバイオ医薬品企業となる
- 持続可能かつ長期的な成長への既存製品および開発パイプラインの強固なポートフォリオを有する
- アッヴィの成長基盤(これまではヒュミラが主)となる規模と収益性を即座に確保できる
- Thomas C. Freyman 氏が取締役会のメンバーとなる

米国イリノイ州ノースシカゴ、2020年5月8日—研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業であるアッヴィ(NYSE:ABBV)は、アラガン社の買収について、買収契約上の要件となっていた全ての政府当局からの承認とアイルランド高等裁判所から承認を得て、完了したことを発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「当社、従業員、株主、患者さんにとってこの重要なマイルストーンを達成することができ嬉しく思います。アラガンの従業員の皆さんには、当社の転換点に向けて、アッヴィの従業員と共に尽力して下さったことに感謝します。新生アッヴィは、既存製品および開発パイプラインにおいて重要な多くの治療カテゴリーで多様なポートフォリオを有しリーダー企業になります。また、強固な財務基盤を有し、今後もイノベーションを生む科学に投資をし、患者さんのアンメットニーズに応えていきます。両社を誇りに思い、将来の好機に期待しています」

#### 主要治療領域で長期的な成長の良好な基盤を有する

この取引により、アッヴィの収益基盤と既存のリーダーシップポジションが大きく拡大・多様化します。免疫領域では、Humira®(日本での製品名:ヒュミラ®)、新発売の Skyrizi™(スキリージ®)と Rinvoq™(リンヴォック®)、血液腫瘍領域では、Imbruvica®(日本ではヤンセンファーマ株式会社が販売。イムブルビカ®)、Venclexta®(ベネクレクタ®)があります。アラガンからは、神経疾患領域では、Botox® Therapeutics(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社が販売。ボトックス®・セラピューティック)、Vraylar® や Ubreelvy™、そしてリーディングブランドを有するグローバルなエステティクスビジネスには、Botox®(ボトックスビスタ®)、Juvederm®(ジュビダームビスタ®)があります。

既存製品のポートフォリオの多様化により、アッヴィの今の成長基盤(これまではヒュミラ®が主)製品からの2020年の通年の売上高は約300億ドルから約500億ドルとなります。また、長期的な



成長潜在力を高め、増配、各治療カテゴリーにおけるイノベーションへの投資が可能になります。債務の増分は、営業キャッシュフローを増やすことで、速やかに返済できると見込んでいます。

さらに、買収手続き完了にともない、アッヴィの取締役会は、アボット社のエグゼクティブ・バイスプレジデント兼 CFO を退職した、Thomas C. Freyman 氏を、アッヴィの取締役として選出しました。Freyman 氏はアラガンの取締役会のメンバーでした。

### 財務条件

取引条件に基づき、アラガンの株主は、アラガンの株式 1 に対しアッヴィの株式 0.8660 の交付および 120.30ドルの金銭交付があり、アラガン 1 株当たりの対価の合計は 193.23ドルとなります(2020年5月7日現在、アッヴィの普通株式の終値 84.22ドルに基づく)。アラガンの普通株式は、ニューヨーク証券取引所の本日(注:5月8日)の取引終了時間で取引を終了しました。

なお、アッヴィ合同会社の社長である、ジェームス・フェリシアーノは次のように述べています。「この度、アラガン社との統合という新たなマイルストーンを迎えることができ、イノベーションのさらなる追求と患者さんへの貢献に向けた、グローバルレベルでの今後の可能性に大変期待しています。日本においては、アッヴィ合同会社とアラガン・ジャパン株式会社は、同一企業グループ内の別会社として存在し、既存の業務を継続してまいります。その上で、日本の患者さんや医療関係者の方々へさらなる貢献を果たせるよう、今後の統合計画を検討してまいります」

### アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、[www.abbvie.com](http://www.abbvie.com) をご覧ください。Twitter アカウント@abbvie、[Facebook](https://www.facebook.com/abbvie)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/abbvie) や [Instagram](https://www.instagram.com/abbvie) でも情報を公開しています。

### アッヴィ 今後の見通しに関する記述

本発表には、アッヴィのアラガンの買収(「買収」)および両社の統合グループの推定または予想される将来の事業、業績、運用実績、財務状況(統合グループの推定、予想、目標および計画を含む)を含め、特定の将来の見通しに関する記述が含まれています。「確信」「期待」「予測」「計画」という言葉およびそれに類する表現は、一般に将来予想に関する記述となります。このような将来予想に関する記述は、リスクおよび不確実性による影響を受け、実際の結果と将来予想に関する記述での予測との間に大幅な相違が生じる可能性があります。このようなリスクおよび不確実性には、買収により企図されたシナジー効果および価値創出など買収で見込んでいたベネフィットが実現しないこと、アラガンの事業が迅速かつ効果的に統合されないこと、買収の完了がアッヴィの普通株式の市場価格に及ぼすマイナス影響、多額の取引費用および/または不明あるいは推計不能の負



債、買収に伴う訴訟の可能性、統合後、主要な人員を定着させられないこと、統合グループに影響する経済・事業の一般的な条件、グローバル・政治的・経済的・ビジネス・競合・市場・規制・将来の為替・利息レートにおける変化、税法、規則、税率、方針の変更、将来の事業の買収または処分、競争環境における変化、COVID-19のような公衆衛生上のアウトブレイク、エピソードあるいはパンデミックによる影響などが含まれます。これらの将来予測の記述は、過去の傾向、現在の状況、事業戦略、事業環境、将来の動向および適切と考えるその他の要因に関するアッヴィの経験および認識を踏まえた、多くの仮定と評価に基づいています。その性質上、将来予測に関する記述は、イベントに関連し将来に発生する状況に左右されるため、既知および未知のリスクと不確実性を伴います。本発表においてこれらの将来予測に関する記述に記載されている要因により、アラガンまたはアッヴィの実際の業績、パフォーマンスまたは達成、業界の景気や動向に関する計画は、これらの将来予測に関する記述で明示または暗示されているものと大きく異なる可能性があります。このような将来予測に関する記述に反映された期待は合理的であると考えられますが、その期待が正しいと証明されることは保証できず、したがってこの発表を読まれる場合にはこの発表日時点でのみ言及している将来予測に関する記述に全面的に依拠することのないよう注意を喚起します。アッヴィの経営に影響を及ぼす可能性のある経済、競合状況、政府、科学技術およびその他の情報については、アッヴィによる米国証券取引委員会への定期的な一般公開届出に記載されています。これには、アッヴィのアンニュアルレポート 10-K 書式(2019年12月31日終了)のとその後の四半期報告書(10-Q 書式)、アッヴィが適宜行っているその他の投資家向けコミュニケーションが含まれますが、これらに限定されるものではありません。なお、いずれの場合も、その内容は本発表に引用されておらず、発表の一部を構成するものではありません。

本発表における将来の見通しに関する記述は、本発表の日現在のアッヴィおよび/または、その取締役会が入手可能な情報に基づいています。ただし、真実であると信じられていても、最終的には誤りであることが証明される場合もあります。適用される法に基づく義務に従い、アッヴィおよびその取締役会メンバーは、新しい情報、将来の動向などの結果として、将来の見通しに関する声明を更新する義務を負わず、将来の見通しの声明を、実際の結果、将来のイベントあるいは、予想の変更と一致させる義務を負いません。アッヴィ、その取締役会、またはその代理として業務を行う者の将来予測に関する書面および口頭による後に続く全ての記述は、本項により完全に適格であることが明示されています。

SOURCE AbbVie